

★「導入→展開→まとめ」の流れがしっかりありましたか。

授業前→見出す→自分で取り組む→広げ深める→まとめあげる

★「一斉」「個別」「協働」の各場面が組み込まれ、生徒が楽しそうに、能動的に活動していましたか。生徒の思考は変容し、深まっていましたか。教師も積極的に介入していましたか。

授業づくりチェックシート

記入者（ ）

- 1 教科等（ ） 指導者（ ）
授業日・場所 令和 年 月 日（ ） 場所（ ）
大単元（ ）
- 2 生徒の基本的な座席隊形（ 一列 ・ コの字 ・ 班別 ）
- 3 授業開始時に生徒が自分の机の上に置いているもの
- 4 本時に向けての家庭学習（予習）課題の有無と内容
- 5 本時に伝えたいこと、感じさせたいこと、考えさせたいこと
（関心をもってもらいたい社会的課題等）
- 6 めあて（本時の学習目標）の提示方法
- 7 生徒個別の目標（めあて）設定の有無と方法
- 8 主発問（「本時の学習目標と主発問は違う！」「質問と発問は違う！」）
(1)
(2)
- 9 導入の工夫
- 10 習得させたい新たな知識・技能とその定着のための方法（家庭学習での取組含む）
- 11 既習事項の確認（生徒一人一人の実態把握 ※振り返り活動は重要）
- 12 教科書（テキスト・資料）を読ませる機会の有無と方法、その内容を理解させる工夫
（家庭学習での取組含む）
- 13 学力低位（当該教科苦手な）生徒の、理解・作業等進捗状況把握の方法
（例：机間巡視、タブレット利用）

14 各授業形態における活動内容

(1) 「一斉」の場面

(2) 「個別」の場面 （例：主発問についてまず自分で調べ考える。習熟度別の問題を各自解く。教師はつまづいている生徒のサポートに入る。わからないことは隣の席の生徒に尋ねる。）

必要な情報の収集方法や取り組むときの視点、思考の進め方の指導など、考えをもたせる環境を整えたか。学び合い（協働）に向けて、文章や言葉・図表など適切な方法で、自分の考えや説明を記述させたか。

(3) 「協働」の場面 （形態（ペア・グループ・クラス）、 進行役の有無等）

児童生徒相互が関わり合い、考えを深める場を設けたか。

※「クラストーク」については、お互いの顔が見える「コの字型」が望ましい。基本の座席が「コの字型」なら、個別にも全体トーク（一斉）にも対応できるのではないか。「クラストーク」充実のためには、テーマ（発問）の質と、指導者のコーディネート力が重要。さらには、生徒たちの発言のスキル（「つながるための発言スキル」）も必要である。菊池省三先生のように。

（例：個での学習に続き4人グループで討議を行った。タブレット上の資料を根拠に説明をした。）

15 授業形態充実のための工夫

(1) タブレット、ICT 機器の活用

(2) 体験的な活動（実験等）の有無と内容

(3) クラストークの場面での指導者のコーディネートの工夫

(4) 個への助言や方策の伝授への工夫（主に個別の場面で）

(5) グループ討議（活動）の際の班編成等の方法（人数・司会者）

(6) 班討議のルーティーンへの指導（発言のスキル、データ（根拠）をもとにした発言）

(7) 習熟度別課題の提供（個別の場面で）の有無と内容

(8) 生徒によるプレゼンテーション場面（全体あるいは各班で）の有無と内容

16 生徒によるふりかえり・自己評価の有無と方法

17 本時後の家庭学習課題の有無と内容